

# PRESS RELEASE

プレスリリース

## スタンダードチャータード銀行、国内での開業 125 周年を祝い「横浜開港記念みなと祭」に参加

—100 万人の視覚喪失者の視覚回復に向けた世界規模の募金活動の一環として—  
—自由創造賞受賞—

[2006 年 5 月 4 日、東京] - 英国大手スタンダードチャータード銀行は国内での開業 125 周年を記念し、「第 54 回横浜開港記念みなと祭国際仮装行列」に参加しました。横浜は、同行が国内第一号の出張所を開設したゆかりのある場所です。

スタンダードチャータード銀行は、「Right Partner」という企業モットーの下、地域福祉への関与に努めています。同行は 100 万人の視覚喪失者の視力回復に向け、今年末までに十分な資金集めを目指した募金活動「*Seeing is Believing*」を世界で展開しています。みなと祭では、この *Seeing is Believing* キャンペーンの認知度の向上を目指し、参加フロートとブースを制作しました。



今回のみなと祭に出場したスタンダードチャータード銀行のフロートは、*Seeing is Believing* キャンペーンの世界親善大使を務めるヘンリー・ワンヨイケ氏の半生をつづった児童書「*Run With Me* (僕と走ろう)」と、ワンヨイケ氏の育ったアフリカの村をイメージし、デザインされました(詳しくは、次ページの「スタンダードチャータード銀行のフロートについて」をご参照ください)。

今回のイベントには、インターナショナルスクール 5 校ならびにスタンダードチャータード銀行がスポンサーを務め

る、障がいを持ったランナーの支援団体「アキレス・トラック・クラブ」から、30 人以上のボランティアが参加し、スタンダードチャータード銀行の *Seeing is Believing* キャンペーンをサポートしました。仮装行列には総勢 25 万人以上が参加し、横浜みなとみらい地区を行進しました。

横浜商工会議所の厚意により、*Seeing is Believing* キャンペーンのブースは赤レンガ倉庫の近くに設置されました。ブースには、ケニア出身で全盲のパラリンピック金メダリスト、ヘンリー・ワンヨイケ氏と、彼の伴走者を務めるジョセフ・キブンジャ氏の自伝を基にした児童書「*Run With Me* (僕と走ろう)」をテーマに製作されたリストバンドや T シャツなど、*Seeing is Believing* キャンペーングッズが出品されました。「*Run with Me*」は、*Seeing is Believing* キャンペーンのために特別に高円宮妃殿下により編集・和訳された児童書です。この本には別紙が添えられており、書かれたメッセージは今後スタンダードチャータード銀行により冊子「*Right Partners*」にまとめられ、学校に配布されます。また、みなと祭のブースにて集められた寄付金は、全額 *Seeing is Believing* に寄付されます。



なお、プロカメラマン撮影の高画質写真をご用意しています。

写真については、

アシュトンコンサルティング・リミテッド

リチャード・ブラウン

Tel: 080-1083-4412/ 080 1083 4412

Email: mail@ashton.jp

本プレスリリースの内容に関するお問い合わせは、

スタンダードチャータード銀行

パトリシア・ベーダー・ジョンストン

Tel: 03 5511-1361

Email: patricia.bader\_johnston@jp.standardchartered.com

までご連絡ください。

\* \* \*



### スタンダードチャータード銀行のフロートについて

このたびの横浜開港記念みなと祭への参加は、スタンダードチャータード銀行が 1881 年に国内第一号の出張所を横浜に開設して 125 周年を数えることを記念し、企画されました。出場フロートは、高円宮妃殿下編集・和訳によりヘンリー・ワンヨイケ氏の半生をつづった児童書“Run With Me (僕と走ろう)”をイメージし、デザインされました。ケニア出身の全盲マラソン走者ヘンリー・ワンヨイケ氏は視覚障害者マラソン世界記録保持者であり、シドニーおよびアテネで行なわれたパラリンピックで 3 つの金メダルを獲得しています。ワンヨイケ氏は、同行の *Seeing is Believing* キャンペーンの世界親善大使を務めています。今回出場した同行のフロートには、上部に *Seeing is Believing* のリストバンドがデザインされています。このリストバンドは全盲マラソン走者とその伴走者の協力の大切さを象徴しています。

### Seeing is Believing について

2003 年に始まった *Seeing is Believing* は視覚喪失問題の解決の支援を目的とした、世界規模で行なわれる重要な地域主体のプログラムです。世界には 3,700 万人の視覚障害者があり、成人は 5 秒に 1 人、子供は 1 分に 1 人の割合で視覚を喪失している計算となりますが、実に 75% の視覚喪失は回避可能な治療可能なのです。*Seeing is Believing* は、スタンダードチャータード銀行、サイト・セーバーズ・インターナショナル（本拠地：英国）ならびに回避可能な視覚喪失者を減らすことに努める団体 VISION2020 が共同で、百万人の視覚回復を目標に 3 年間で 600 万米ドルの募金を集めるキャンペーンです。1 年目には 2003 年 10 月 9 日のワールド・サイト・デーまでに当初の目標の 2 倍である 5 万 6000 人の視覚回復に必要な寄付金が寄せられ、大成功を収めました。

Seeing is Believing のウェブサイト（英語）：[www.seeingisbelieving.org.uk/](http://www.seeingisbelieving.org.uk/)

Seeing is Believing のウェブサイト（日本語）：[www.standardchartered.com/jp/japanese/seeing.html](http://www.standardchartered.com/jp/japanese/seeing.html)

### 日本およびアジアにおけるスタンダードチャータード銀行について

スタンダードチャータード銀行は、125 年前、日本におけるはじめての出張所を横浜に開設しました。東京支店は山王パークタワー（千代田区）にあり、現在 170 人を擁しています。うち日本人社員は 94% にのぼります。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール（大口金融）、カスタディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供しながら成長を続けています。今年 7 月にはプライオリティバンキングのためのリテール支店を東京丸の内に新設しました。

スタンダードチャータード銀行は過去 1 年間、Permatia Bank（インドネシア）、韓国第一銀行（韓国）、ANZ のアジア、中近東全域のプロジェクトファイナンス事業、Prime Credit（香港）等の一連の買収戦略と、自身の自律成長を共に進め、アジア、アフリカ、中近東の各地域で確固たる地位を確立してきました。スタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースで FTSE100 構成銘柄の上位 25 社の一つに数えられています。

スタンダードチャータード銀行は、視力回復および HIV/AIDS 教育の分野で地域組織を支援する CSR プログラムを積極的に実施するなど、地域社会への貢献に向けてたゆまぬ努力を続けています。同行は今年 6 月、英 IR マガジン社主催の「第 15 回英国 IR 賞 2005・ベスト CSR 部門賞」を受賞しました。

スタンダードチャータード銀行は“*Seeing is Believing*”プログラムを推進しており、2 年間で 100 万人の視力回復の実現を目指しています



日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト（日本語）：[www.standardchartered.com/jp/japanese/](http://www.standardchartered.com/jp/japanese/)

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト（英語）：[www.standardchartered.com/jp/index.html](http://www.standardchartered.com/jp/index.html)